

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰー海洋スポーツ (141A1-5270)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	榮樂 洋光・中村 夏実					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		15名程度			
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。それらの社会状況に対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむ安全に楽しめるように、基礎的知識と技術を身につけることを目標として、下記の内容を実施する。本授業では「できる」ことを目指す。 ○気象海象による危険回避の知識、活動種目選択の考え方、また荒天時の代替プログラム例などを教授する。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、主な海洋スポーツ種目の基礎技術の習得を図る。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキndaイブングの基礎技術の習得を図る。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
		■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○					30
		■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境に意識を向ける。	○							20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキndaイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。	○	○				○		50		
成績評価の基準	9 0点以上はS、8 0点～8 9点はA、7 0点～7 9点はB、6 0点～6 9点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキndaイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。										
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。										
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)		1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限り、授業は海洋センターで実施します。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟709室（榮樂）、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	榮樂 洋光 中村 夏実	オリエンテーション カヌー実習（カヤック、カナディアンカヌー 基本的パドルイング）				レポートの提出（1）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）					
前2	〃	カヌー理論・実習①（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）				カヌーの基本について予習・復習（1時間）					
前3	〃	ヨット理論・実習①（艀装と帆走）				ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前4	〃	競技力を向上する会に参加				自競技と他競技の相違点まとめる（1時間）					
前5	〃	ヨット理論・実習②（基本帆走）				レポートの提出（2） ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前6	〃	ヨット理論・実習③（方向転換）				ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前7	〃	ヨット理論・実習④（各種帆走）				ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前8	〃	ヨット理論・実習⑤（風上-風下レグの帆走）				ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）					
前9	〃	ヨット理論・実習⑥（レース・実技テスト）				レポートの提出（3） ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）					
前10	〃	ウィンドサーフィン理論・実習①（艀装とセイルアップ）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					
前11	〃	ウィンドサーフィン理論・実習②（基本帆走）				レポートの提出（4） ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					
前12	〃	ウィンドサーフィン理論・実習③（方向転換）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					
前13	〃	ウィンドサーフィン理論・実習④（各種帆走、マーク回航）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					

前14	〃	ウインドサーフィン理論・実習⑤（各種帆走、マーク回航）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウインドサーフィン理論・実習⑥（レース・実技テスト）	レポートの提出（5） ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	カヌー理論・実習②（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	レポートの提出（6） カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後2	〃	カヌー理論・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	カヌー理論・実習④（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後4	〃	カヌー理論・実習⑤（ツーリング・総括・実技テスト）	レポートの提出（7） カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後5	〃	ボート理論・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出（8）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	〃	スキندайビング理論・実習①（3点セットの取扱い）および泳力の向上	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキندайビング理論・実習②（様々なフィンキック）および泳力の向上	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキندайビング理論・実習③（マスク&シュノーケルクリア）および泳力の向上	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキندайビング理論・実習④（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキندайビング理論・実習⑤（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキندайビング理論・実習⑥（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	レポート提出（9）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	〃	スキンドайビング総括（エントリー～ダイブ～潜行～浮上）	レポートの提出（10）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンドайビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ (141A1-5271)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)						
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光					補助担当者名								
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		15名程度						
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。そこで、海洋および水辺活動を展開できる指導力の獲得をめざし、他者へ注意を払う余裕を持てるレベルの技術を習得するとともに、海洋スポーツ活動の指導補助を多く経験することを目的に、下記の内容を実施する。本授業では「わかる」ことをめざす。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して実習Ⅲ受講者が作成する、海洋スポーツプログラム（指導案）指導実習において、指導補助を体験する。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキndaイビング技術の向上を図るとともに、スキndaイビングレスキューを経験する。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。													
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。						○				30
			■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○									20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキndaイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。なぜできたか、なぜできなかったかを論理的に理解し、改善策方策を考える。	○	○				○		50					
成績評価の基準	9 0 点以上はS、8 0 点～8 9 点はA、7 0 点～7 9 点はB、6 0 点～6 9 点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキndaイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。													
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。													
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。			備考(教員メッセージ含む)		1）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。 2）天候により授業内容が変更されることがあります。 3）授業内で、学生への教育効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動のみに使用します。								
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーションおよび講義				配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）								
前2	〃	動力船の準備／安全に関する知識の確認				レポート（1）安全な活動のための必要事項をまとめる（1時間）								
前3	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習①				実技課題について事前にリストアップする（1時間）								
前4	〃	競技力向上の会に参加				他競技の実状について振り返る（30分）								
前5	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習② (実技課題について課題習得段階・指導手順の構成に関する演習)				自身の経験をもとにした課題習得段階を紹介できるよう整理する（1時間）								
前6	〃	指導理論・指導補助実習1-①ローイング種目および水辺活動 (児童対象／ロールプレイング演習)				ロールプレイング実習の展開について事前準備をする ※担当者（1時間） レポート（2）実習記録 ※担当者（1時間） レポート（3）課題習得段階のまとめ ※担当者（1時間）								
前7	〃	指導理論・指導補助実習1-②ローイング種目および水辺活動 (中高年齢者対象／ロールプレイング演習) 高須小学校ヨット学習（事前学習）				ロールプレイング実習の展開について事前準備をする ※担当者（1時間） レポート（2）実習記録 ※担当者（1時間） レポート（3）課題習得段階のまとめ ※担当者（1時間）								
前8	〃	指導理論・指導補助実習1-③イベントプログラムの立案と実践 (一般市民対象／ロールプレイング演習)				ロールプレイング実習の展開について事前準備をする ※担当者（1時間） レポート（2）実習記録 ※担当者（1時間） レポート（3）課題習得段階のまとめ ※担当者（1時間）								

前9	〃	指導理論・指導補助実習1-④スキンドайビング・レスキュー (一般成人対象／ロールプレイング演習)	ロールプレイング実習の展開について事前準備をする ※担当者(1時間) レポート(2)実習記録 ※担当者(1時間) レポート(3)課題習得段階のまとめ ※担当者(1時間)
前10	〃	指導理論・指導補助実習1-⑤カヌー・レスキュー (一般成人対象／ロールプレイング演習)	ロールプレイング実習の展開について事前準備をする ※担当者(1時間) レポート(2)実習記録 ※担当者(1時間) レポート(3)課題習得段階のまとめ ※担当者(1時間)
前11	〃	指導理論・指導補助実習2-①ヨット (シーホッパー①成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする ※(1時間) レポート(4)実施記録 ※担当者(1時間)
前12	〃	指導理論・指導補助実習2-②ヨット (シーホッパー②成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする ※(1時間) レポート(4)実施記録 ※担当者(1時間)
前13	〃	指導理論・指導補助実習2-③ヨット (シーホッパー③成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする ※(1時間) レポート(4)実施記録 ※担当者(1時間)
前14	〃	指導理論・指導補助実習2-④ (シーホッパー④成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする ※(1時間) レポート(4)実施記録 ※担当者(1時間)
前15	〃	指導理論・指導補助実習2-⑤ヨット／実技テスト (シーホッパー⑤成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする ※(1時間) レポート(4)実施記録 ※担当者(1時間) レポート(5)ロールプレイング演習中におけるヒヤリハット事例 ※全員(1時間)
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習(オーシャンボート体験)	レポート(6)ボートとカヌーの共通点および相違についてまとめる(1時間)
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習① (基本帆走の復習)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習② (マーク回航・タッキングとジャイビング)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③ (上・下レグ帆走・コース回航練習)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④ (レース／実技テスト)	レポート(7)ウィンドサーフィンの帆走技術についてまとめる(1時間)
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する(30分)
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する(30分)
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(8)舟艇の修理等についてまとめる(1時間)
後9	〃	スキンドайビング指導理論・実習①3点セットの取扱いおよび泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後10	〃	スキンドайビング指導理論・実習②スキンドайビングの物理学・生理学および泳力の向上	レポート(9)スキンドайビングの生理学的要素についてまとめる(1時間)
後11	〃	スキンドайビング指導理論・実習③フィンスイム能力の向上および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後12	〃	スキンドайビング指導理論・実習④耳抜きとサーフェイスダイブおよび泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後13	〃	スキンドайビング指導理論・実習⑤ベイルアウト(マスク)および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後14	〃	スキンドайビング指導理論・実習⑥基本的な救助法および泳力の向上	レポート(10)スキンドайビングにおけるヒヤリハット事例についてまとめる(1時間)
後15	〃	スキンドайビング実技およびレスキューの総括	配布資料を参考に復習する(30分)
後16	〃	学期末実技試験(泳力およびスキンドайビング技能)	自主練習をする(30分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ (141B1-5270)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光・瀬戸口 明久					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。これらの社会的状況に対応した指導力を高めるため、自らプログラム（学校体験活動、市民講座、競技会、市民レースなど）を立案して、ロールプレイングで行う指導実習を主とし、下記の内容を行う。本授業では、「伝えられる」ことを目指す。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、海洋スポーツの様々なプログラムを作成し、指導者として、競技スポーツ実習Ⅱ受講者を対象に実践する。 ○冬期においては、プールにおけるスキンドайビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○舟艇の応用的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
	■認知的領域	指導者として、海洋スポーツを安全に行うための海事知識、危険予知・危険回避の知識、各種目の実技指導理論を理解する。			○					30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○							20
■技能的領域	安全管理を含め、初心者に対する海洋スポーツ種目の実技指導ができるようになる。 手本を見せられる。説明できる。改善方を指導できる。	○	○			○			50	
成績評価の基準	9 0点以上はS、8 0点～8 9点はA、7 0点～7 9点はB、6 0点～6 9点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンドайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する									
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。									
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)		1）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 2）天候により授業内容が変更されることがあります。 3）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーションおよび講義				配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）				
前2	〃	動力船の準備/安全に関する知識の確認				配布資料を参考に安全に関する知識の確認をする（30分）				
前3	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習①				実技課題について、事前にリストアップする（1時間）				
前4	〃	競技力向上の会に参加				他競技の実状について振り返る（30分）				
前5	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習② (実技課題について習得段階・指導手順の構成に関する演習)				(レポート1) 実技課題習得段階・指導手順についてまとめる（2時間）				
前6	〃	指導理論・指導実習1-①ローイング種目および水辺活動 (児童対象/ロールプレイング演習)				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前7	〃	指導理論・指導実習1-②ローイング種目および水辺活動 (中高年齢者対象/ロールプレイング実習)				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前8	〃	指導理論・指導実習1-③イベントプログラムの立案と実践 (一般市民対象/ロールプレイング演習)				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前9	〃	指導理論・指導実習1-④スキンドайビング・レスキュー (一般成人対象/ロールプレイング演習)				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前10	〃	指導理論・指導実習1-⑤カヌー・レスキュー (一般成人対象/ロールプレイング演習)				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前11	〃	指導理論・指導実習2-①（シーホッパー①・成人初心者対象）				指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）				

前12	〃	指導理論・指導実習2-②（シーホッパー②・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）
前13	〃	指導理論・指導実習2-③（シーホッパー③・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）
前14	〃	指導理論・指導実習2-④（シーホッパー④・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）
前15	〃	指導理論・指導実習2-⑤（シーホッパー⑤・成人初心者対象） レース／実技テスト	指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート）	配布資料を参考にカヌーおよびボートに関連する知識を復習する
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習①（基本帆走の復習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習②（マーク回航・タッキングとジャイビング）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③（上－下レグ帆走・コース回航練習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④（レース） 実技テスト	レポート(6)ウィンドサーフィンの帆走技術について分析しまとめる（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する（30分）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する（30分）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(7)道具の管理運営についてまとめる（1時間）
後9	〃	スキندайビング指導理論・指導実習①（用具の機能と装着の指導） スキندайビング・レベルアップ実習①（ベイルアウト）	スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後10	〃	スキندайビング指導理論・指導実習②（生理反応を理解し危険性を解説） スキندайビング・レベルアップ実習②（道具を使ったレスキュー）	レポート（8）スキندайビングで起こりうる生理応答とそれによっておこる危険性等についてまとめる（1時間）
後11	中村 夏実 瀬戸口 明久	スキندайビング・レベルアップ実習③（体験SCUBAダイビング含む）	スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後12	〃	スキندайビング・レベルアップ実習④（体験SCUBAダイビング含む）	スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後13	〃	スキندайビング・レベルアップ実習⑤（体験SCUBAダイビング含む）	スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後14	〃	スキندайビング・レベルアップ実習⑥（体験SCUBAダイビング含む）	スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する。 （レポート9、10）スキندайビング・ダイビングの実習過程において適宜出題する。
後15	中村 夏実 榮樂 洋光	スキندайビングおよびレスキューの総括	これまでの配布資料およびレポートを参考に振り返る（30分）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキندайビング技能）	自主練習をする（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ (141C1-5270)		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	榮樂 洋光・中村 夏実・瀬戸口 明久				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度				
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。このような社会的なニーズに応えられる即戦力を養うため、リーダーとして受講者グループを統率する事を主とし、以下の授業内容を展開する。 本授業では、「企画できる」ことを目指す。 ○実習Ⅰの指導補助を通して、プログラム遂行における安全管理能力の向上を図る。 ○冬期においては、プールにおけるスキندайビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○海洋スポーツプログラムにおける、指導体制や安全管理体制、料金設定等の事例を調べ、それぞれ目的を設定して海洋スポーツ教室やツーリズムをシミュレーションする。 ○舟艇の修理修繕と管理方法を実習する。○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、事業運営力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	実習Ⅲまでに学習した知識をさらに深めるとともに、海洋スポーツ活動の意義と目的を踏まえた、総括的な活動の企画に関する知識を習得する。			○				30
		■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
■技能的領域	海洋スポーツ活動を企画し、対象者やスタッフの技量や人数、季節、使用できる用具、フィールド等に則した計画を立案して、楽しく、安全に、総括的な指導ができる。	○	○			○		50		
成績評価の基準	9 0 点以上はS、8 0 点～8 9 点はA、7 0 点～7 9 点はB、6 0 点～6 9 点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキندайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。									
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供する。									
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)	1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限りです。授業は海洋センターで実施します。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟709室、710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	榮樂 洋光 中村 夏実	オリエンテーション 水慣れ活動の指導			レポートの提出（1）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）					
前2	〃	カヌー指導計画・実習①（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）			カヌーの基本について予習・復習（1時間）					
前3	〃	ヨット指導計画と指導実習①（艀装と帆走）			ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前4	〃	競技力を向上する会に参加			自競技と他競技の相違点をまとめる（1時間）					
前5	〃	ヨット指導計画と指導実習②（基本帆走）			レポートの提出（2）ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前6	〃	ヨット指導計画と指導実習③（方向転換）			ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前7	〃	ヨット指導計画と指導実習④（各種帆走）			ヨットの基本について予習・復習（1時間）					
前8	〃	ヨット指導計画と指導実習⑤（風上-風下レグの帆走）			ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）					
前9	〃	ヨット指導計画と指導実習⑥（レース運営）			レポートの提出（3）ヨットで習得した知識と技術をまとめる					
前10	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習①（艀装とセイルアップ）			ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					
前11	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習②（基本帆走）			レポートの提出（4）ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）					

前12	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習③（方向転換）	ウィンドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前13	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習④（各種帆走、マーク回航）	ウィンドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前14	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑤（各種帆走、マーク回航）	ウィンドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑥（レース運営）	レポートの提出（5）ウィンドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	カヌー指導計画・実習②（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）	レポートの提出（6）カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後2	〃	カヌー指導計画・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	カヌー指導計画・実習④（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後4	〃	カヌー指導計画・実習⑤（ツーリング・総括）	レポートの提出（7）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後5	〃	ボート指導計画・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習③	レポートの提出（8）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	中村 夏実	スキندайビング指導計画・実習①	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキندайビング指導計画・実習②	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキندайビング指導計画・実習③	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキندайビング指導計画・実習④、スキューバダイビング実習①	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキンドайビング指導計画・実習⑤、スキューバダイビング実習②	スキンドайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキンドайビング指導計画・実習⑥、スキューバダイビング実習③	レポート提出（9）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	榮樂 洋光 中村 夏実	スキンドайビングレスキュー実習	レポートの提出（10）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンドайビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）